第 13 回定例教育委員会 会議録

開催月日　令和6年1月5日（金）

開催時間　午後　3　時　30　分から午後　4　時 20 分まで

開催場所　教育委員会室

出席委員

教育長	降籏　友宏
教育長職務代理者	小澤　幸子
教育長職務代理者	松坂　浩志
委員	橋本　幸子
委員	椙浦　陽

出席職員

教育次長	河野　公紀
教育監	市川　敏也
教育監	初鹿野　仁
次長（総務課長）	小林　洋一
教育企画室長	岩出　修司
福利給与課長	永井　研一
学校施設課長	白須　慎一
義務教育課長	小池　孝二
高校教育課長	萱沼　恵光
特別支援教育・児童生徒支援課長	鷹野　美香
生涯学習課長	平賀　貴久子
保健体育課長	山田　芳樹
働き方改革推進監	伊藤　宏紀
総務課	
総括課長補佐	齊藤　七二
課長補佐	河野　敏三
主査	小池　涼子
教育企画室	
室長補佐	天野　信一
主幹	内藤　京
主任	細田　美保
保健体育課	
課長補佐	花輪　孝徳
主幹・指導主事	小沢　健司

傍聴人　0　名

報道　1　名

会議要旨

〔　教育長開会宣言　〕

長澤委員から都合により会議を欠席する旨の届出があった旨、教育長から報告があった。

1　議案　なし

2　報告事項　なし

3　その他報告

(9)　令和５年度中学校卒業予定者の第２次進路希望調査結果の概要について

［説明］　教育企画室

教育長　私からよろしいでしょうか。今回の希望倍率のところを学校別に見ると、例えば甲府西高校や韮崎高校は倍率が割れている一方で、普通高校でも甲府東高校は倍率が非常に高いです。また、ＳＳＨといった学校のところでも倍率が伸び悩んでる一方で、甲府工業などの工業系の分野については希望者数を一定数確保できています。
この要因は何か、またこの結果をどのように受けとめればいいでしょうか。

岩 出 室 長　　第１次調査から第２次調査への例年の状況を申し上げますと、先ほどもご説明いたしましたが、もともと高かったところは低くなり、低かったところは高くなる傾向があります。これは、中学校の進路指導の影響もあるかと思います。
資料の７ページに学科ごとの希望調査結果が出ておりますが、普通科から探求科までのいわゆる普通科系学科につきましては、例年、第１次から４％近くくらいまで下がっていくというような状況です。今年度も第１次では67.03％が希望しておりましたが、今回の第２次では63.45％とマイナス3.58％でありました。逆に工業科、商業科、農業科などのいわゆる職業科系については前回の第１次から1.86％の増となっており、例年と同じような傾向となっています。
実は今回、希望する割合が増えているのが総合学科でありました。前回13.82％だったのが今回は15.54％。総合学科の定員を下げたという部分が多少影響あるのではないかと思いますけれども少し上がり幅が大きかったという状況があります。
ただ、ここ１０年を比べてみても今回の動きが何か特徴的なものがあったかといえばそんなことはなく、大体中央値くらいにいます。

教　育　長　　今回の第２次希望調査の倍率を各中学校の方で見てもらうと、倍率が今低く出ている普通科の高校もまた動いてくる可能性はあるということでしょうか。

岩 出 室 長　　はい、おそらく少し倍率が高いところなどが多少動いていくと思われます。特に旧甲府総合選抜の学校はいまだに割と高い状況がありますので、全県下ということで甲府のみならず他の地域から希望されてる方は、場合によっては地元の高校の方に回避するような現象も生じてくるのではないかというふうに思っております。

松 坂 委 員　　塩山高校の英数コースの希望が昨年は１人だけだったようですが、実際にどのように運営しているのでしょうか。今年も２５人募集のうち１人しか希望していないようですがとありますが、運営は大丈夫なんでしょうか。

岩 出 室 長　　英数コースは普通科の中の内数のコースという設定になっています。普通科として入学した生徒の中からその後の希望としてコース選択していくという形になろうかと思われます。

教　育　長　　コースだけで1つのホームルームを構成するということではなく、生徒はそれぞれが英数コースとしてのカリキュラムを取っていくというイメージでしょうか。

内 藤 主 幹　　普通科の中から英数コースを希望する生徒を募って新しくクラスを編成するという対応をしておりますので、1人でクラスを作るということではありません。

松 坂 委 員　　そうならばこのようにコース希望別に分ける必要があるのでしょうか。全体の半分も集まらないとなると学校全体の運営が大丈夫かと心配になります。
全体的な数値を見ていけば生徒たちの意向がある程度よく分かると思うのですが、定員の半分も満たない学校や学科があるということは、生徒たちの意向と隔たってきているのではないかと思います。今は進路の考え方が多様化してきており色々と変わってきてるので、このような隔たりをくみ取って募集人員などに反映していく必要があると思います。

教　育　長　　今回の結果について、先ほど岩出室長の方から説明がありましたが、大きな流れとして定時制や通信制の多様性が注目を集めてきていて、そちらの方に生徒が希望が多くなっているという状況が見られます。今、貴重な御指摘をいただきました。

小 澤 委 員　　確かに定時制公立高等学校の募集人員がすごく多いですよね。子どもの数とか考えるとそこまで多くしなくてもいいのではないかと思いますが、定員募集人員の変更はあまりしてはいけないとか何かルールがあるのでしょうか。

教　育　長　　生徒の募集人員数と先生の配置数とは関連性が高いため、そう簡単ではないと思っています。ただ、そのような点にも考慮し、状況を分析しながら、今後の定員数というものを慎重に考えていく必要があると思っております。

【　了　知　】

(10)　令和５年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について
［説明］　保健体育課

松 坂 委 員　　「子供の体力向上推進事業」の具体例として「目指せ！やまなしチャンピオン！」とありますが、これは優勝した学校など何かアナウンスはしているのでしょうか。

山 田 課 長　　月と学期と年ごとそれぞれで表彰しておりまして、それを県のホームページにアップして周知しております。

松 坂 委 員　　何校ぐらいが参加しているのですか。

山 田 課 長　　平成29年から始まった事業でありまして、コロナ禍もあったので若干少なくなっているのですが、令和５年１０月現在でだいたい３０校ぐらいが参加しております。

松 坂 委 員　　マスコミに情報提供はしているのですか。

山 田 課 長　　本事業を開始した平成２９年度には、マスコミにも情報提供し、新聞等にも取り上げていただきました。

松 坂 委 員　　そういうことは大事なのかもしれませんね。

山 田 課 長　　はい。

小 澤 委 員　　①の「健康・体力つくり一校一実践運動」と②の「目指せ！やまなしチャンピオン！」ですが、学校ではどちらかをしているのですか、それとも両方しているのですか。

山 田 課 長　　①についてはすべての小中学校でやっておりまして、②については小学校のみとなっています。③の「もっと楽しい体育授業で体力アップ！」についても小学校のみとなっております。まずは、小学校段階で達成感や喜びを感じてもらい、運動って楽しいなっていうところの意識を醸成した上で中学校につなげていくというようなイメージで取り組んでいます。

橋 本 委 員　　コロナ禍でいかに学校の日常生活が子供の体力に影響を与えるかということが分かりました。以前お聞きしましたが、「投運動、投げる」ですか、ほとんどの学校で行ったのでしょうか。

山 田 課 長　　今年度でほとんどの学校で終わります。これは３年間の事業で、令和元年から始めてその後延長して、まだ今年度もやっておりますが、約１８０校すべての学校において行っています。

橋 本 委 員　　「投運動」のあと、次にやっていこうというものはあるのでしょうか。

山 田 課 長　　全国的には投運動は右肩下がりで非常に投げる能力が落ち込んでいるので、来年度以降は県内の投運動の成果を見ながら、その辺を継続していくのかまた新たなことをやっていくのかなど何が必要かを県の課題として見極めてやっていきたいと思います。
大谷選手からグローブをいただいたので、結構興味を持ってやってくれるかなと期待はしています。

橋 本 委 員　　1つ皮肉なのが、県内中学生の女子は全国平均より良いのに運動はあまり好きではないという結果がでているところですね。

山 田 課 長　　全国的に中学生になると女子は運動をしたがらない傾向があるのですが、ただ山梨県の女子は健康は大事だという意識は非常に高く、運動は必要ということは分かっているようです。

教　育　長　　１週間に４２０分以上の運動ってけっこう大変だと思うのですが。１日６０分ということで、これは学校の授業や休み時間を含めて６０分以上とカウントするのか、それとも学校が終わった後の運動のことなのかどちらなのでしょうか。

山 田 課 長　　学校の授業以外です。登下校も含めて、放課後自分で遊ぶ等も含めて６０分です。

教　育　長　　今の子どもたちは放課後とか忙しいので、その中で１日６０分の運動はハードルが高いかもしれません。

山 田 課 長　　そこで休み時間の運動が重要になってくると思っています。

小 澤 委 員　　例えば、自転車で通学するというのも運動時間ですか。

山 田 課 長　　はい。

小 澤 委 員　　山間部の子どもはバス通学が多いので意外と運動不足であると聞いたことがあります。

山 田 課 長　　そうですね。バス通学は運動時間に入らないです。

教　育　長　　子どもの体力低下にようやく歯止めがかかったというところではあるのですが、さらに回復していくためにも先ほど山田課長が説明した重点項目を引き続き行っていくことが大事だと思います。
また、令和元年からの一校一実践や目指せチャンピオンはコロナ禍の中での取り組みなので、コロナ過が終わった今、もう一度体を動かす大切さを認識するいい機会でありますので、この機を失うことなく適時適切に取り組んでいくことが重要だと思います。

【 了 知 】

〔 教育長閉会宣言 〕

以　　上